

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ケアステーションかんざき			
○保護者評価実施期間	2026年1月19日～2026年3月31日			
○保護者評価有効回答数	対象者	10人	回答者	8人
○従業者評価実施期間	2026年8月1日～2026年8月15日			
○従業者評価有効回答数	対象者	6人	回答者	6人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 9月9日			

○分析結果

	事業所の強み(*)だと思われること (*)より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや 意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取り組み等
1	・各町の保健師、保育所、幼稚園との連携がとれており、情報を共有しながら支援を行うことが出来ています。	・相談があった時に、出来るだけ迅速な対応を心がけています。 ・必要に応じて実際に現場に足を運ぶようにしています。	・さらに連携を深めるために、スタッフが保育所や幼稚園でのこどもの様子を見学させてもらう機会を設けていきたいと思っています。
2	・発達年齢に合わせた支援プログラムの提案をしています。 ・集団療育と個別療育の訓練があり、子どもや保護者のニーズに合わせた療育を受けることが出来ます。	・保護者のニーズの聞き取りや子どもの成長を定期的にチェックし、支援プログラムの見直しを行っています。 ・個別、集団療育のそれぞれの場面での様子を踏まえ、支援内容を見直すことが出来ます。	・利用児数が多くなっているため、次のステップへの移行がスムーズにできない状況があります。今後期間を決めた利用の検討も行っていきたいと思っています。
3	・療育に保護者も一緒に参加していただき、子どもの理解や子どもへの関わり方を学んでもらうことが出来ます。	・スタッフと子どもの様子を見てもらい、家庭内での関わり方の参考にしてもらうことが出来ます。 ・家の様子と違った子どもの様子を見てもらい、得意なことや苦手なことを確認する事ができます。	・ペアレントトレーニングの研修などに参加し、さらに知識の向上を図っていきます。

	事業所の弱み(*)だと思われること (*)事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や 工夫が必要な点等
1	・事故対応、災害対応などの緊急時の対応マニュアルは整っているが、実際の緊急事態が起こった際によりスムーズに対応が出来るように、周知と訓練を行っていく必要があります。	・マニュアルはあるが、すべてのマニュアルを職員が把握し、行動することは難しい可能性があります。	・手順のフローチャートの整備や定期的な訓練が必要だと考えています。
2	・母子通園のため、仕事の都合で利用しにくい。	・仕事をしている保護者の方が多い。 ・個別訓練のニーズが高い。	・集団療育や母子通園の良さをしっかりアピールしていきます。 ・来てよかったと思ってもらえるように充実したプログラムの検討を行っていきます。 ・充実した時間となるように、療育だけでなく、子どもの振り返りと、保護者の思いをしっかりお聞きする時間を作っていきます。